

認知症ケア

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：最新の論拠に基づいてアルツハイマー病やその他の認知症の発現過程を理解した上で、認知障がいのある高齢者や若年性アルツハイマー病への理解を深め、援助方法について学ぶ。また、認知症を持つ高齢者の日常生活・社会生活への適応を支援する看護方法や介護家族を支援する方法について学ぶ。学習した知識と技術を総合的に用いて認知症高齢者の模擬環境構築も体験する。

- 到達目標**：①認知症及びアルツハイマー病の定義をし、夫々の臨床的特徴を述べる事が出来る。
 ②脳内の臨床的变化を理解すると共に重症度によるアルツハイマー病の分類と各レベルの特徴を述べる事が出来る。
 ③米国の最新の認知症に対する医療・看護・介護の在り方を説明する事が出来る。
 ④認知症をコミュニケーション、栄養、環境の観点から理解し、支援方法を述べる事が出来る。
 ⑤認知症対象者や介護家族を支援する看護方法、疾患進行遅延策について述べる事が出来る。
 ⑥認知症をもつ高齢者の家族やケア提供者の直面している課題を述べる事が出来る。
 ⑦認知症高齢者のQOLを考慮した環境の条件を述べる事が出来る。

■**担当教員**：スーディ神崎 和代

■**授業計画・内容**：

第1回	認知症・アルツハイマー病の臨床的定義と特徴 認知症とアルツハイマー病の相違を説明し、臨床的な特徴、脳内変化について教授する。また、日本、米国、世界的な認知症の実態を紹介し、現状への理解を促す。また、統計的データを示し、EBNIにも触れる。	案を作成し、グループ毎に発表する機会を設ける。この過程で認知症への理解を更に深めると共にチームでの協働作業・クリティカル思考・創造性増強を図る。
第2回	認知症の人の内面的世界 軽度の認知症の人の記述物などを参考にしながら認知症と共に生きるひとの内面に焦点を当て、理解への試みを示す。	第9回・第10回・第11回 グループ毎の発表・討論 グループで作成した企画・設計案を発表し、討論に参加することで認知症と環境の関係への理解を深めると共に自らの考えとグループの考えをまとめ、発表する過程を経験し、討論のルールも学ぶ機会とする。
第3回	現時点での診断・治療・看護・介護 現在の認知症に関する診断方法、治療方法、疾患のプロセスを説明し、認知症ケアに於ける看護・介護の重要性を示す。また、アルツハイマー病の重症度による分類方法についても教授する。	第12回 認知症を持つ人の人権擁護と安全確保のバランス 人間としての基本的な人権擁護をはかりつつも疾患のために安全確保が困難な人の保護・支援をはかるなかでの両天秤のバランスの重要性を説明し、倫理的・法的な見地から教授する。
第4回	認知症を持つ高齢者とのコミュニケーションのあり方 認知症、特にアルツハイマー病のコミュニケーションスタイルと特徴を説明し、ケア提供者の立場からの支援方法を教授する。	第13回 認知症を持つ高齢者を囲む家族、ケア提供者の課題(ゲストスピーカー) 実際に認知症ケアに携わっている、あるいは携わったことのある家族に経験を語って貰い、地域・在宅で認知症を持つ人のケアにあたる家族・ケア提供者が直面している課題への理解を深める機会とする。
第5回	認知症を持つ高齢者と栄養 認知症であるが故に発生する栄養に関する問題点を示し、ケア提供者の立場から改善策を教授する。	第14回 現場からの声を聞く(ゲストスピーカー予定、スピーカーの都合により繰り上げ、繰り下げの可能性有り)現場で認知症を持つ高齢者の看護・介護に携わってきた看護師に現場での経験を語って貰い、ケア現場の実情への理解を深める機会とする。
第6回	認知症を持つ高齢者のQOLを高める環境整備 環境の認知症を持つ人への影響や効果を具体的に示し、ケア提供者の立場から疾患進行遅延策と安全対策の面から環境要因とQOL改善策を教授する。	第15回 今後の課題：討論 認知症を持つ高齢者を取り囲む政策問題、ケアの質と評価に関する課題などを中心に討論し、まとめの機会とする。
第7回・第8回	グループワークプロジェクト 6回までに学んだこと、及び自己学習の集約を行い、チームで認知症のある人のQOLを高め、且つ安全な環境整備プロジェクトの企画・設計	*ゲストスピーカー都合や講義の進捗状況により授業の順番変更や調整の可能性はある。

■**教科書**：在宅看護学講座 スーディ神崎和代 他 ナカニシヤ出版 参考文献

■**参考文献**：認知症と診断されたあなたへ 小澤 勲/黒川 由紀子編 医学書院 1600円
 若年期認知症・本人の思いとは何かー松本照道・強固夫妻の場合 かがわ出版 1890円

■**成績評価基準と方法**：出席、授業への参加態度、チームプロジェクト貢献度、レポートなどから総合的に評価する。

評価方法	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④	到達目標⑤	到達目標⑥	到達目標⑦	評価基準	評価割合(%)
レポート	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	レポート内容	30
授業態度・グループワーク								討論への参加、グループ活動への貢献・参加 プレゼンテーションなど	50
中間レポート(ゲストスピーカー)				20%	20%	60%		参加態度	20
出席状況								欠席1回につき-5点とする。 1/3以上の欠席は欠格とする。出席カードを代理で提出するなどの不正があった場合は1回で欠格とする。	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：認知症状やアルツハイマー病という疾患に焦点をおくのではなく、あくまでも疾患をもつ人、つまり人間に焦点をあてる姿勢での授業に臨んで下さい。

共通教育科目

デザイン学部専門教育科目

看護学部専門教育科目